

cafe talk_13

13.14合併号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。
enoco同様、新たな展開を図る節目を迎えているお二人です。



前田 健治さん (右) アートディレクター / デザイナー
1984年2月大阪生まれ、京都育ち。ZOOMDESIGN退職後、2012年にmémを設立。コンセプトワークからブランディング・グラフィックデザイン・デジタル分野まで、さまざまな領域でのデザインを手がける。
www.m-e-m.jp

衣笠 名津美さん (左) 写真家
1989年生まれ、兵庫県在住。写真館に勤務後、独立。ドキュメントを中心に、デザイン、美術、雑誌等の撮影を行う。どこでも出張家族撮影を行うスーパー写真館衣笠としても活動中。
kinugasanatsumi.tumblr.com

ニノールコーヒー江之子島店 3月より、ニノールはトーストとコーヒーの専門店としてリニューアルオープンいたしました。トーストもコーヒーも全て自家製、自家焙煎。店内で作っており、お持ち帰り用の販売も行っております。季節限定メニューも考えているので、どうぞお楽しみに！また、テイクアウトも出来るので、ちょっと一息にぜひご利用くださいませ。



- クルーズにも同行いただきましたが、いかがでしたか？
- 前田 大阪は「キタ」や「ミナミ」などのイメージで語られることも多いと思いますが、改めて船で川を巡ると、大阪の街のいろんなレイヤーが見えてきますね。
- 衣笠 実は「御舟かもめ」は2度目なんです。けど、前とは違うルートでのクルーズだったので新鮮でした。
- 前田さんは西区内に事務所があるご近所さんなのに、5周年フォーラム「創造のテーブル」のフライヤーが初めてのお仕事でした。今回もその時のデザインを活かしていただきました。
- 前田 どちらも言葉やenocoの事業内容からイメージをすくいあげていきました。「ネットワーク」は連鎖していくようなイメージ、「教育」は学んだことが内面からにじみ出てくるようなイメージなど。ただ、最近事務所を浪速区に移したので、ご近所さんではなくなってしまいました。
- 少し残念ですが、新天地も楽しみですね。衣笠さんは兵庫在住ですが、大阪・京都でのお仕事も多いとか。
- 衣笠 そうなんです。でも「お笑い芸人さんを撮る仕事をしたい」という密かな夢があって、大阪に引っ越したいんです！
- 今回もスタッフのいい表情を撮っていただきました。夢の実現を楽しみにしています！

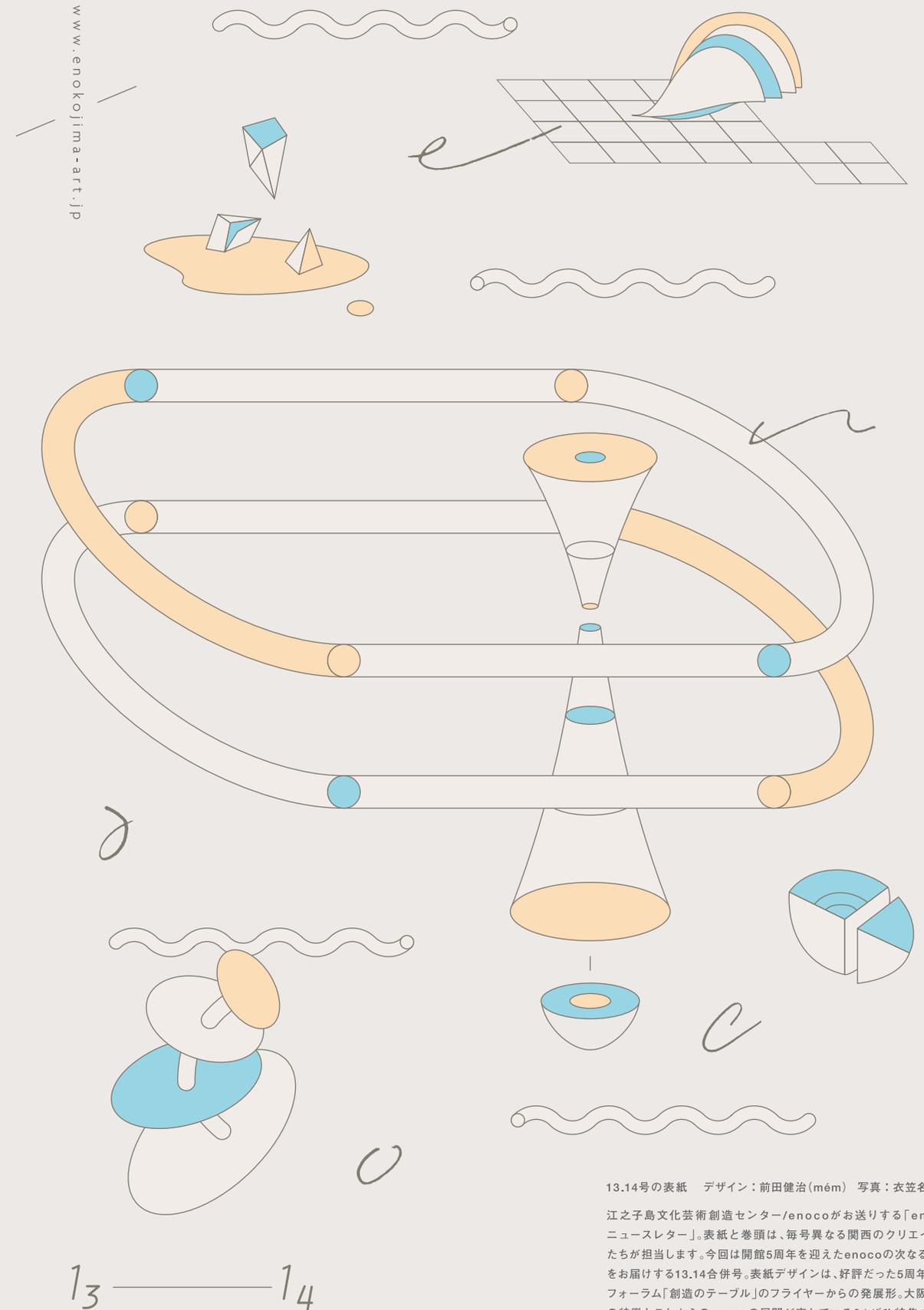
enokojima creates osaka **enoco** 大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

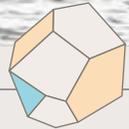
〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号
開館時間：10:00～21:00(ただし展示室は催しによりオープン時間が異なります)
月曜・年末年始休館
電話 06-6441-8050 | FAX:06-6441-8151
メール art@enokojima-art.jp
www.enokojima-art.jp



[アクセス]
大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

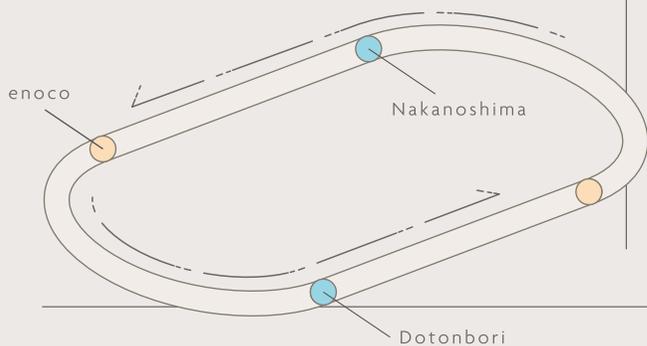


13.14号の表紙 デザイン：前田健治(mém) 写真：衣笠名津美
江之子島文化芸術創造センター/enocoがお送りする「enoco ニュースレター」。表紙と巻頭は、毎月異なる関西のクリエイターたちが担当します。今回は開館5周年を迎えたenocoの次なる展開をお届けする13.14合併号。表紙デザインは、好評だった5周年記念フォーラム「創造のテーブル」のフライヤーからの発展形。大阪の街の特徴とこれからのenocoの展開が表れている?!ぜひ特集ページを読んだ後に改めて表紙を見てみてください。



は こ e
な れ n
そ か o
う ら c
を の

TALKING
ABOUT
ENOCO



enocoは2017年4月、開館5周年を迎えました。「アートやデザインの方で都市の課題をクリエイティブに解決する」ことを目指して活動してきたenocoは、長谷工コミュニティ・E-DESIGNプラットフォームグループが指定管理者として2012年度から5年間の運営を担ってきましたが、2017年度からの5年間も継続して運営にあたることになりました。「継続」自体、大きな一歩ですが、同じことを繰り返すのではなく、これからの5年を「シーズン2」(第2期目)として気持ちを新たに様々なことに取り組んでいきます。そこで今回はシーズン2を担うスタッフによる座談会を開催。enocoのこれからについて、船上を舞台に話します。ご存知の方も多いと思いますが、大阪は実は「水の都」。都心に川でぐるっと一周まわることのできる「水の回廊」があります。実はenocoもその「水の回廊」沿いに位置しています。ということで、川から街を眺めながら、enocoや大阪の未来を考えるクルーズが始まりました……。

座談会参加者



館長
甲賀 雅章

静岡から月2~3回大阪に通い、enocoの全体を取りしきるとともに、「陽気なよそのもの」として大阪人の懐にひょいっと飛び込む。チャーミングな髪型がトレードマーク。

高坂: 指定管理者として運営をしてきて5年。私たちのチームが指定管理者としてこの4月からの5年間もenocoの運営を担うことになりました。

高岡: 企画部門のスタッフも少し入れ替わり、長年「おおさかカンヴァス」の事務局を務めていた古谷さんが新しく加わってくれました。古谷さんは、フリーランスでアートコーディネーターの仕事もしていますが、enocoでもそのネットワークや手腕を活かしてくれることを期待しています。

古谷: が、頑張ります…。enocoは様々なリソースやバックグラウンドを持つ人たちが集まっているけれど、みんな常にenocoにいるわけではないので、チームとして動くにあたって情報やアイデアの共有方法は課題だと思うんですね。いろんなツールを使って実験していきたいとも思っています。

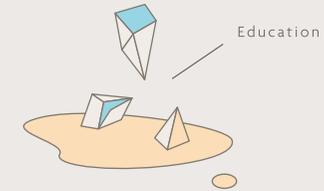
高坂: enocoの企画部門は全員がフルタイム勤務ではなく、他の仕事をしていたりすることがほとんどで、顔を合わせるタイミングって意外と少ないですもんね。

高岡: それぞれがenoco以外の場でも動いているという状況は、個々のリソースや経験をenocoに持ち込むことができるメリットもあるので、バラバラであることがデメリットにならないようなチームのあり方は考えてないといけませんね。

甲賀: 古谷さんの経験やネットワーク、そしてアイデアにツールの活用、おおいに期待しています。enocoの次の5年のテーマは「教育」「ネットワーク」「プラットフォーム」の3つを大きく掲げています。今日はその3つのテーマについて、今後の展開を話し合えたら。

「教育」という新たなチャレンジ

忽那: 「教育」については、「ソーシャル・エデュケーション」ということも意識して進めていきたいですね。日本では「生涯学習」と訳され、個人が教育を受ける権利といったような少し偏ったかたちで導入されているように思うんですが、そのあり方を捉え直していきたい。高齢者を含む、様々な世代の人たちが、地域や社会に関わる、死ぬまで自分の生きる意味を見出すことができる、といったような学びのあり方を考えていきたいと思います。



濱本: 特に高齢者層の学びについては、今現在大阪で動いている先行事例などのリサーチもしています。既存のコンテンツとも連携していくことも考えられますね。

高坂: enoco自体も、これまで社会人向けの学びの場「enocoの学校」、子どもや親子向けプログラムを実施してきました。



プラットフォーム部門
チーフディレクター
忽那 裕樹

オープンで熱いマインドと軽快なのに説得力のあるトークで人を魅了し巻き込む、enocoの大黒柱(体型も?)。座談会当日(4/21)が誕生日!実はマジシャン。



企画部門
チーフディレクター
高岡 伸一

行政職員やクリエイターからの信頼も厚いenocoの要。「事務局長」的役回りでも各所引っ張りだこのためenoco出沒率は低め。SNSで動向確認されることもしばしば。

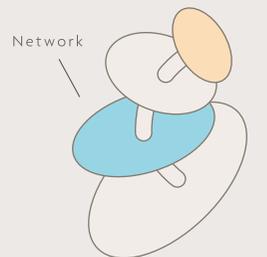
高橋: enocoのシェアオフィスに入居している一般社団法人タチヨナとは実験的なプログラムを展開してきた蓄積があり、地域の子どもたちもプログラムへの参加がきっかけで、放課後や休日にenocoにちよくちよく来てくれるようになりました。なんとなくくだけ、たまり場になっているというか。そんな状況を活かすプログラムができればいいですね。

濱本: 全体として、きちんと受講料をもらって運営していけるような仕組みづくりも必要ですね。

忽那: アーティストやクリエイターがきちんとお金をもらって教えるという仕組みにしていきたい。まず「先生=人」ありきでプログラムを組んでいったほうがいいのではないかと考えています。先生と一緒にプログラムを考えていくイメージ。

高岡: これまで実施してきた大学間連携事業も「教育」プログラムの一環に組み込めれば。

忽那: そうですね。大きくは「高齢者」、「社会人」、「学生」、「子ども」という4つのカテゴリーがあって、個々のプログラムはそれぞれでも成り立っているけれど、「教育」という事業全体のコンセプトを共有している、というようにしたいですね。



地域一大阪一世界とのつながり

高橋:隣のマンション(FLAG46)ができて、enocoの見え方もまた変わりましたね。

甲賀:いろんな人にenocoに入ってきてもらえるような仕掛けも必要だね。

吉原:引き続きマルシェも開催していきますが、enoco近隣や大阪のお店をさらにリサーチして参画をお願いしていきたいです。企画や運営もだいぶ慣れてきましたし、仕組みも出来つつありますが、今後はスタッフ間でそれを共有したり、協働者を増やしていかないと継続が難しいなと感じています。

高岡:「教育」のプログラムと連動して、マルシェの運営や仕組みを学び、実際に企画運営するというような、実践型のプログラムもあっていいかもしれませんね。

吉原:そうですね。それができるといいです。マルシェはある意味、いろんな実験ができる場所としても機能していくといいなと思います。お客さんの層も普段のenoco来館者層とは少し違うのですが、だからこそ、ちょっとしたことを試す場にもなりますし。

高坂:マルシェは西区内からの来場者が多く、地域の人たちからの認知度も高まってきたように思います。ちなみにenocoの周辺地域には、中之島GATE、そして先日グランドオープンした木津川遊歩空間など、実は大阪の水辺の動きをリードする場所があるんですよね。木津川遊歩空間は愛称が「トコトコダンダン」になりました。



企画部門
プログラムディレクター
高坂 玲子

enocoの中では中間管理職の役回りですが、雑務から企画までいろいろ担当し、今年度から広報も兼務。気性は荒めだが、開館から5年を経てだいぶ丸くなったような気もする。

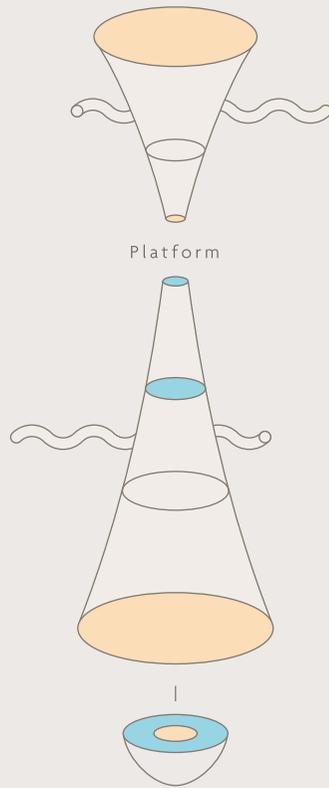


忽那:木津川遊歩空間はこの春に広場部分の一般供用もスタートして、今後はenocoもメンバーの「トコトコダンダンの会」という任意団体で場の活用を進めていきます。それと同時に、木津川遊歩空間は地域の方々の思いや使いこなしのアイデアを取り入れた上でデザインコンペをするという新しいスキームによってつくられた場所。コンペには土木専門業者でなくても応募できるようにして、若手建築家の岩瀬諒子さんの案が採用されました。enocoはこのスキームづくりに関わったんですが、他の地域でも活用できるよう、このプロセスと成果をきちんとまとめて発信していくことが次のステップかな。

高坂:それと、地域のみんなが使いこなししていくことも次のステップですね。

濱本:例えば、さっきの「教育」の話にも絡めて考えられるのが「園芸」。「トコトコダンダン」を応援したい、活用したいという人たちに対して、ガーデニングや園芸の専門家による講座をひらきながら、まちづくり系の人たちにも関わってもらってこの周辺の「グリーンクラブ」のようなものをつくりたいですね。

吉原:マンションの屋外スペースにも花壇があるので活用したいですね。江之子島や近隣のみなさんでノウハウや場の共有ができれば面白そうです。この地域一体での「グリーンクラブ」、楽しそう!



企画部門
プログラムディレクター
古谷 晃一郎

大阪が誇る「現場の神様」。<おおさかカンヴァス>の事務局を7年間担った後、満を持してenocoに加入。意外にも整理魔。暑がりのため年間半袖率が高い。



プラットフォームディレクター
濱本 庄太郎

地域に入り、冷静に状況を見極め合意形成をはかるファシリテーションには定評があり、enocoスタッフ間では密かに「濱プロ」と呼ばれている。

甲賀:大阪はアジアからの観光客が多いね。今までのenocoには他の地域、特に海外とのつながりはほとんどなかったけれど、これからの5年は「ネットワーク」も大きなテーマ。とはいえ、まずはリサーチから。アジアのクリエイティブシーンとも繋がってほしいね。

高岡:「ネットワーク」とは何なのか、それをどう活かすのかも同時に議論していく必要がありますね。単純に「知っている」というだけではなく、実のある「ネットワーク」をつくらないと。

甲賀:まずは僕たちの足場である大阪、関西から。パブリック・民間問わずもっと色々な動きがあると思うんだけど、まだ見えてこない。enocoがハブになるような動きもつuckingいかないといけない。そして、それを考えていく上で「上方文化」というものも掘り下げたい。僕はそこに何かのキーがあると思うんだよね。

古谷:「上方文化」といっても様々なジャンルがありますが、例えば?

甲賀:例えば文学。今年、芝居で井原西鶴役をやったこともあり、江戸時代に花開いた上方文化の「粋(すい)」に今興味を持っている。そういったネットワークも模索していきたいね。



企画部門
アートコーディネーター
高橋 真理子

コレクションの管理・活用をほぼ一人で担い、事務所より収蔵庫に生息している率が高い。意外とうっかりさんなので、知らぬ間に収蔵庫に閉じ込められないか皆が心配している。

多様な人と協働するプラットフォーム

高岡:3つめのテーマである「プラットフォーム」については、これまでもenocoのキーとしてきたところです。アートやデザインで、地域の課題解決に貢献するべく、例えば昨年好評だった「パブリック・リデザイン」も継続していきたいと考えています。勿論、相談事業である「eno so done!」やプラットフォーム形成支援事業も。嬉しいことにenocoには様々な自治体や団体から相談や問い合わせがくるようになってます。

忽那:きちんと議論しながら対応方針を考えていく場をつくっていかないとですね。そして、enocoのスタッフだけでなく、クリエイターやアーティストが関わるプラットフォームにしていきたい。若い人にも関わるチャンスがあるような。そのための仕組みづくりをしていくのもこれからの目標です。



企画部門
アートコーディネーター
吉原 和音

マルシェを立ち上げからほぼ一人で担当し、今やすっかりマルシェマスターに。しっかりしているため、企画部門内では一番年下なのに長女的ポジション。

高坂:相談にも色々なケースがあるので、基本はひとつひとつに適した対応をすることになりますが、フローを整理しないとイケませんね。

甲賀:あとは相談後のフォローアップもしていかないとね。アドバイスのみで終わったケースも多いけれど、その後どうなったかというのを追うことも必要。それに相談事業そのものの評価軸もあわせて考えていかないとイケないね。

高岡:年度をまたぎ、継続して相談を受けることも多いですが、それも相談者の方や団体が自分たちで動いて事を進めることができるように、徐々にenocoが引いていくことも必要ですね。そして、enocoという施設自体、多様な人がその場と資源を活用するプラットフォームになるようにしていきたいですね。



「教育」「ネットワーク」「プラットフォーム」を掲げるenocoのシーズン2。この3つを密に連動させて動いていく5年間となりそうです。しかし、5年間というのは長いようで短い期間。大阪という都市において多様な文化的状況を生み出すべく、実験と検証と出会いを積み重ねながら様々な事業を展開していきます。(2017年度の具体的な事業について、次ページでご紹介します。)

今回のクルーズで使用した船はこちら

御舟かもめ

「水に浮かぶ小さな家」がコンセプトの定員10名の小さな遊覧船。今回のような貸切クルーズの他、朝ごはんクルーズ、ドボククルーズなどオリジナルの乗り合いクルーズや船上茶会などのイベントも展開中。ウッドデッキに腰かけ、船長さんとお話しながら川から大阪の街を眺めるゆるりとした船旅は、大阪のまた違った魅力に出会うことができます。



料金：かもめクルーズ 大人2100円(50分)、朝ごはんクルーズ 大人3200円(50分)など/貸切 月~木18000円(50分)、金土日20000円(50分)

電話：050-3736-6333

Web：www.ofune-camome.net



「これから」のイベント情報 coming events

2017年度のenoco



enocoも6年目に突入しました。館の運営を担う指定管理者を選ぶプロポーザルを経て、2017年度からの5年間も、また私たちが携わることになりました。引き続きBe Creative!の精神で、幅広い年代の府民の皆さまや、様々なジャンルのクリエイターが豊かな創造力を発揮できる場となるよう、スタッフ一同努力してまいりますので、引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。私たちは、これからの5年間を見通すキーワードとして、「ネットワーク」、「教育」、そして「プラットフォーム」を掲げて、様々な活動に取り組んでいきます。

ネットワーク これまでも様々なクリエイターや行政機関と連携してきましたが、今後は関西圏の文化関係機関との連携を高め、互いに課題を共有しながら、関西全体の文化シーンを高めていくようなプロジェクトを実施していきます。また、アジアのクリエイティブ・シーンとのネットワークも、広げていきたいと考えています。



教育 enocoの新機軸です。より幅広く府民の皆さまにenocoを活用いただけるよう、様々なテーマを設定した講座を開講していきます。enocoの人脈を活かして魅力的な講師を迎え、単に学んで終わりではなく、学んだ成果を社会に還元できるような、そんな場づくりにも合わせて取り組んでいきます。

プラットフォーム これまでも多様なステークホルダーが同じ土俵の上で議論を重ね、地域や社会の課題にクリエイティブに取り組んでいくための仕組みづくりとして、プラットフォーム形成支援事業に力を入れてきましたが、最近では数多くの相談が持ち込まれるようになってきました。これからもより多くの方が、まちづくりや地域活動に主体的に参加していけるよう、enoco独自のアプローチでサポートしていきます。

[2017年度の具体的事業]

ネットワーク

- 領域横断型文化フォーラム(「創造のテーブル」)
- クリエイター交流会
- えのこじま凸凹ラジオを活用した情報発信

「大阪府20世紀美術コレクション」の活用

- 大阪府20世紀美術コレクション展
- 大阪新美術館建設準備室との連携
- エントランス展示

プラットフォーム

- eno so done!(相談窓口の設置、フォーラム開催)
- Public Re-Design

教育

- enocoの学校
- タチョナ×enoco(子ども・親子向けワークショップ)
- アーティスト・サポート・プログラムenoco[study?]
- クリエイティブな講座プログラム

地域との連携

- えのこdeマルシェ
- 木津川遊歩空間(トコトコダンダン)の活用サポート

その他

- エントランス・カフェエリア等館内スペースのリニューアル
- クリエイティブオフィスの運営 など

えのこdeマルシェvol.10 おとなの夜市



春・夏・秋・冬と季節ごとに開催している「えのこdeマルシェ」。夏のマルシェは毎年大好評の夜に開催!テーマは“おとなの夜市”です。クラフトビールや美味しいご飯やアイスなど、夏夜に食べたくなるお店が盛りだくさん。大人だけでなく子どもみなさんにも楽しんでいただけるように、ゲーム屋台や占いのお店もありますよ。夏の風物詩、夜の「えのこdeマルシェ」にご家族やご友人と一緒にご参加ください。

えのこdeマルシェvol.10 おとなの夜市

日時 2017年8月26日(土)16:00-21:00

会場 enoco駐車場、ほか

入場無料/小雨決行(荒天中止)

【出店店舗・募集します】

8月の「えのこdeマルシェ」に出店いただけるクリエイターを募集します。8月のテーマ“おとなの夜市”にちなんで飲食・雑貨・ワークショップなどたくさんのご応募をお待ちしております。応募詳細は、後日enoco Webサイトににて情報公開しますのでチェックしてください。

募集店舗 飲食店・雑貨店・ワークショップなど

募集数 20店舗

条件 出店料500円、書類審査あり、飲食店舗は営業許可書等の提出が必要となります。その他応募要項はenocoWebサイトをご確認ください。

大学間連携2017 学生提案募集



大学の枠をこえた共通課題への取り組みを通して、大学間の横断的な活動の機会を提供するとともに、学生の柔軟で新しい思考を地域や企業、行政等の課題に活かすプラットフォームの形成を目指す「大学間連携」。昨年度は「滞在を考える」をテーマに観光や定住促進のための提案を大学生・大学院生から募集し、10大学22チームからの多様な提案が集まりました。今年度は「WELLNESS LIFESTYLE 社会を変えるアイデアを共に紡ごう。」をテーマに公募を行います。分野を問わず社会を変える新しいアイデアを募集し、提案の社会実現に向けて本気で検討します。沢山のアイデアをお待ちしています!

大学間連携2017

テーマ「WELLNESS LIFESTYLE 社会を変えるアイデアを共に紡ごう。」

応募資格

○大阪・関西を魅力的にしたい大学院生(個人・グループ・ゼミ・研究室単位)

○大阪に関する提案を行うこと

募集する分野の例

○ウェルネスアーバンデザイン
(建築/土木・交通/ランドスケープ等)

○ウェルネスソーシャルデザイン
(健康・医療に関するシステム/食や農に関する仕組み等)

○ウェルネスプロダクトデザイン
(インクルーシブデザインプロダクト/介護・医療ロボ等)

※応募方法や募集詳細は、enocoWebサイトをご覧ください。

エキシビジョンカレンダー 2017年6月 - 9月 exhibition calendar

月	会期	時間	展覧会名	ルーム
6	6(火) - 11(日)	11-19(日曜11-16)	26 Tsukushi <season2-1>	[ルーム4]
	9(金) - 25(日)	11-19(最終日のみ11-16)	須田剋太『街道をゆく』挿絵原画 -韓国・中国のみちをゆく-	[ルーム1]
	4(火) - 9(日)	10-19(日曜10-16)	第69回 創造展受賞者作家展	[ルーム2]
7	11(火) - 16(日)	11-18(日曜11-16)	大阪成蹊大学美術コース表現教育コース3年生展	[ルーム1,2]
	11(火) - 16(日)	10-20(日曜10-16)	大阪浪漫倶楽部 vol.1	[ルーム3]
	11(火) - 16(日)	10-18(日曜10-15:30)	SO! 朱杏会	[ルーム4]
	18(火) - 23(日)	10-20(日曜10-16)	大阪二紀展	[ルーム1,2,3]
	25(火) - 30(日)	11-19(日曜11-15)	第13回 大阪独立作家展	[ルーム4]
8	※展覧会の予定はありません			
	5(火) - 10(日)	10-18(日曜10-16)	第50回 ハチの会作品展	[ルーム2,3]
9	12(火) - 17(日)	未定	門前秋良展	[ルーム2]
	12(火) - 17(日)	11-19(日曜11-16)	ココヨ水陽会展	[ルーム3]
	19(火) - 24(日)	未定	FoTo SQUARE	[ルーム2]
	26(火) - 10/1(日)	11-18(日曜11-16)	吉田脩二 井上和雄 それぞれの個展	[ルーム1]
	26(火) - 10/1(日)	未定	第32回 新具象展	[ルーム4(A)]

くわしくはホームページをご覧ください <http://www.enokojima-art.jp/>

PICK UP

大阪府20世紀美術コレクション

須田剋太『街道をゆく』挿絵原画 -韓国・中国のみちをゆく-

1971年から25年にわたって「週刊朝日」で連載された司馬遼太郎著『街道をゆく』。須田剋太は連載開始から1990年までの約20年間、『街道をゆく』の挿絵を担当しました。大阪府では1990年に須田氏から寄贈を受け、『街道をゆく』挿絵原画1861点を所蔵しています。

今回はその中から、韓国、中国を巡った6つの章を中心に、初期のモノクロームで描かれた作品から、グワッシュ(不透明水彩)で色彩豊かに描かれた作品まで、およそ60点をご覧いただけます。



須田剋太《鎮海港より寧波港へ向かうジャンク》1981年

会期 | 2017年6月9日(金)~6月25日(日) 11:00-19:00
※月曜休館 ※最終日(6月25日)のみ11:00-16:00

会場 | enoco 4F ルーム1 入場料 | 無料
主催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター

展覧会 & イベントレビュー review

enoco[study?]#4 展覧会

冬木遼太郎

『A NEGATIVE EVAGINATE』

(2017年3月11日~3月26日)

enoco[study]#4にて、冬木遼太郎はワークショップやリサーチを続けるなかで、労働などさまざまな場面で発露し変化する人間の感情を観察した。そして特に社会生活のなかで起こりうるネガティブな感情をどのように転換させるのかに注目し、その方法を考え、結果として発表したのが《感情的分岐点》と題された今回の作品である。展示室には、レバーを巨大化したハンド・ジューサーが設置された。このジューサーを使用できるのは、基本的にはenocoで働く人たちのみで、かつ怒りなど何らかのネガティブな感情を抱えた時だけレバーを押すことができる。いわばストレス発散装置とも言えるが、各人各様の感情は力となってレバーに伝わり、オレンジを搾り、ジュースができる。そして爽やかなオレンジの香りとともにジュースを飲んだらうー連の経験は、行為がなされた状況から読み取るほかない。来館者も希望すればジュースを搾り、飲むことが可能だが、必ずしもそれは推奨されてはいない。果汁を搾り取られ、さまざまなかたちに変形したオレンジも館内各所に置いてあったが、こうした状況から行為とそのなかで変化する感情の流れを想像すること、タイトルに倣えば感情の分岐する時点を想像することがこの作品の肝要な部分であるように思った。実際のところ、どこで他人の感情が分岐するかなどははっきりとわかるはずもないのだが、しかし冬木はそれを問いかける。

オレンジジュースはどんな味がしたのだろうか?大根を怒りながらすりおろすと辛くなるという。無理に力をかけて大根をすると、繊維が壊れて辛みを増すのが理由だが、オレンジはどうなのだろうか?同じ料理でも、その時の感情によって味は変化する。水にやさしい言葉をかけるときれいな結晶ができ、悪い言葉をかけると汚い結晶ができるというような科学的根拠のない話もあるが、人間の感情と行為、物質と感覚をめぐる問いはまだまだ尽きることがない。

奥村一郎

和歌山県立近代美術館学芸員。近年関わった展覧会に「森のなかで: 内山りゅう/押江千衣子/栗田宏一/高木正勝/銅金裕司/戸谷成雄」(2007)、「なつやすみの美術館『みること』『うつすこと』」(2011)、「生誕120年記念 石垣栄太郎展」(2013)、特集「光について」(2015)、「恩地孝四郎展」(2016)など。市民と協働したプロジェクトに「鈴木昭男:点音 in 和歌山 2005」、およびその10周年を記念した「鈴木昭男+梅田哲也:点音 in 和歌山 2015」など。



展示風景 | 写真: 出地増以



リサーチの様子



「これまで」のイベント情報 past events

タチョナ×enoco企画「ヒミツのこども企画会議」

会議／2017年2月4日、2月18日、3月4日(全3回)、大人のためのワークショップ／2017年3月25日

子供たちが「大人のためのワークショップ」を企画する、という本プログラム。〈企画〉とは何か?という話からスタートし、ワークショップの企画、広報物の作成まで子供たちが手がけました。企画されたワークショップは、企画会議のメンバーが講師となって3月25日に実施。当日までヒミツにされていたその内容は、参加者である大人たちに一日子供の立場となってもらい、講師から出される無理難題(寸劇、ポスター作成、ダンス)をこなしていくという参加者にとって過酷な側面もある、いままでないワークショップとなりました。

この「ヒミツのこども企画会議」は、大人と子供の関係性を双方から見つめ直すこと、そして、子供が大人の保護のもとにあるという関係性をどう脱出できるのか、ということ課題に企画されました。本事業のレポートは、enoco Webサイトのスタッフブログに掲載しています。そちらも是非合わせてご覧ください。

高橋真理子／enoco企画部門



大阪国際がんセンターでの大阪府20世紀美術コレクション活用

2017年3月に大阪国際がんセンター(旧成人病センター)が大阪市中央区大手前に移転・開院するのに伴い、病院内での美術作品展示の監修を行いました。

病院には患者さんやお見舞いの方、病院で勤務する方など様々な方がいて、患者さんは病気で闘う中で不安や葛藤で心情が常に変化すると思われます。また、お見舞いに来られる方や病院で勤務されている方たちは患者さんに寄り添って、患者さんとともに病気で闘っています。そういった心情や行動に寄り添うアートを展開したいと思い、コンセプトは“様々な変化する心情と行動に寄り添うアート”としました。

院内には大阪府所蔵の「大阪府20世紀美術コレクション」から関西ゆかりの作家の作品など約130点を選定し、展示しています。地下1階から3階までは一般の方も入れますので、ぜひこの機会に大阪府のコレクションをご覧いただければと思います。

▷大阪国際がんセンター:大阪市中央区大手前3-1-69(地下鉄谷町四丁目駅 徒歩1分)

石塚育代／enocoプラットフォーム部門



開館5周年記念フォーラム 「創造のテーブル2017—大阪と創造の対話」

2017年3月25日(土)13:00~19:00 enoco 4階ルーム1

開館5周年を記念して、これまでの総括と次の5年間を展望する、enoco史上最大規模のフォーラムを開催しました。パフォーマンス(大谷煥×大澤苑美)、デザイン(服部滋樹×西村佳哲)、アート(寺浦薫×西野達)、そしてアーバンデザイン(泉英明×岩瀬諒子)の4つのジャンルについて、関西圏を拠点とするクリエイターと、全国的に注目を集める活動を展開するキーパーソンとの対談を重ねることで、ジャンルと地域性の両面から、現在のクリエイティブシーンを立体的に展望しようという試みでした。全部聴講すると6時間という長丁場でしたが、ゲストの豪華さもあって100名を超える多くの方にお越しいただき、最後まで緊張感が途切れることなく、笑いや交えながら真剣な対話が紡がれていきました。大澤さんの青森県八戸市で行政が仕掛けるアートによるコミュニティ活性化の試みや、西村さんによる徳島県神山町における場のデザインのお話からは地方と都市との比較、そして西野さんのパブリックスペースでのアート活動からは海外と日本の違い、そして東京の若手建築家として大阪

の水辺空間整備に取り組んできた岩瀬さんが語る多くの気づきなど、様々な角度から大阪、そして関西圏の文化的状況が浮き彫りになっていきました。最後は登壇者全員にenocoの甲賀雅章と忽那裕樹が加わってパネルディスカッションを行い、共通する話題としてプロセスの大切さや、多様な人々が加わったり、第三者に継承することができるような仕組みづくりの重要性などが議論されました。各ジャンルの活動の意味を客観的に測定する意味でも、このような領域を横断する議論の機会を重要との意見もいただきました。enocoでは、今後も継続してこのような機会を設けていきたいと思っています。

また、フォーラム終了後はenocoの開館5周年を祝うパーティへと場面を転換し、enocoスタッフによる趣向を凝らした(?)サービスを楽しんで頂きつつ、ゲストを囲んで閉館時間まで、活発な対話が途切れることなく続けました。

高岡伸一／enoco企画部門





enocoのひとびと people



先日、長崎県・対馬に初めて行ってきました。季節はウニ漁真っ最中で、これまでに食べたこともない大量の生ウニをアツアツのご飯にのせて口いっぱいに放り込んだ瞬間の幸せだったこと…が、その後すぐに喉の奥が急激に腫れてしまいウニアレルギーが発覚。美味しいものはコワイ！[企画部門プログラムディレクター 古谷晃一郎]



4月、木津川遊歩空間オープニングセレモニーがありました。アイデアコンペに始まり、地元の方たちとのWSを重ね、やっとオープン。当日は曇り空でしたが、子どもたちは花を植えたり、広場で走り回ったり、「トコトコダンダン」という愛称通り、様々なダンダンがあり、好きな場所で好きなように過ごす、多様な「使いこなし」がある空間です。[プラットフォーム部門 石塚育代]



突然ですが、今年度の目標は屋外映画祭をやってみることで！できれば芝生なんか広がった気持ちいい場所で寝転がりながら、ちょっとbeerも欲しいです。もっとわがまま言えば、キャラメル味のポップコーンも…こんな映画が見たい！というリクエストがあれば、濱本までお知らせを。[プラットフォーム部門ディレクター 濱本庄太郎]

enocolumn 13

青空の見える混沌に身をゆだねて

大阪のミナミと呼ばれる道頓堀、心齋橋界隈で生まれ育った私ですが、子供の頃は西区の方へ遠征することはあまりありませんでした。enocoが竣工する前、元大阪府庁の後にできた大阪府工業奨励館の附属棟として建てられた現在の建築空間を見た時、ここが大阪の新しい文化拠点として活動を展開できれば、これからの大阪文化の可能性を拓くだろうと思いました。

そしてenocoが開館して5年がたち、都市の創造性を引き出し、未来の社会を生き抜くための新しい価値観の確立をめざして多様な活動を展開されていることを心から応援したいと思います。

私が活動の中心にしているDANCEBOXも昨年、創立20周年を迎えました。コンテンポラリーダンスを軸に、公演活動、新進芸術家の育成、神戸市内の小学校でのコミュニケーション教育、地域との連携、福祉関連等、多様な事業を展開しています。

新長田という地域をアートでどのように遊べるのか。新長田に劇場を移転して8年目になります。この間、アーティストやダンス関係者に限らずに多様な人たちと出会い、時には協働してきました。在日コリアン、ベトナムやミャンマーの人たち、漁師さん、ガラス職人、建築家等々。コンパクトだけど顔が見える関係が人と人をつなぎ、私たちはとても豊かな生活を送っています。

この4月から神戸アートビレッジセンター(KAVC)の館長の仕事を兼任しています。新長田と新開地。新開地にはまた異なる魅力が溢れています。このふたつだけではなく、enocoやKIITOなど、様々な文化施設とネットワークを形成しながら、次世代に継承できる新しい社会をつくることを考えていきたいと思っています。

青空の見える混沌に身をゆだねて！

大谷 煥

NPO法人DANCE BOXエグゼクティブディレクター。神戸アートビレッジセンター館長。大阪生まれ。1996年に大阪でDANCE BOXを立ち上げ、多数のコンテンポラリーダンスの公演、ワークショップをプロデュース。2009年4月、神戸・新長田に拠点を移し、劇場「ArtTheater dB 神戸」をオープン。新進の振付家・ダンサー・制作者を育成する「国内ダンス留学@神戸」や、「KOBE-Asia Contemporary Dance Festival」など国際交流事業のほか、アートによるまちづくり事業も多数行う。2015年KOBE ART AWARD受賞。神戸大学、近畿大学非常勤講師。



大阪府 20世紀美術コレクション

この一点！

1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。
総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介いたします。



「作品」
須田 剋太(1906-1990)

1964年 | 189cm x 273.5cm | 油彩、ドンゴロス

1906年に埼玉県に生まれた須田剋太はほぼ独学で洋画を学び、1941年頃関西へ移り住み、具象絵画の作家としてその評価を確立しました。しかし1949年頃、長谷川三郎と出会ったことで抽象表現へと転向、1952年には現代美術懇談会(ゲンビ)に参加します。その後、具象絵画の制作も再開し、1971年からは司馬遼太郎による『街道をゆく』の挿絵を担当。晩年には、書や陶板の作品を手がけるなどその表現手法は多岐に渡ります。
今回ご紹介する《作品》は、須田が抽象絵画を制作の中心としていた頃の作品です。支持体には、須田が好んで使用していたドンゴロスという麻袋を開いたものが使われています。ドンゴロスの粗い網目を埋めるように塗り込められた土台が独特の絵肌を作り出し、その存在感に圧倒される作品です。本作品は大阪府庁本館1階に常設展示されています。開庁日(月～金)であればどなたでもご覧いただけますので、ぜひ一度ご覧ください。



高橋 真理子
enoco企画部門

オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス 米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介します。



「プレイガイドジャーナル」

通称プガジャ。関西のイベント情報誌です。同じ情報誌の「ぴあ」は全国誌として有名ですが、このプガジャは関西のローカル雑誌。1971年から1987年まで続いたようなので、ローカル雑誌としてはかなりの人気だったことが伺えます。とりあえず適当に手に取った1冊「1982年11月号『秋の学園祭82』」を見てみます。学園祭の情報がびっしり。奈良県立医大ではイルカが歌って、大谷女子大では新野新が講演しています。そして京都大学では「どぶろく作りは人民の権利」なるイベントが…さすがです。その他の号では、紳助竜介の雑談や、セーラー服と機関銃／相米慎二監督のインタビューなど、なかなか面白い内容です。でも全く今必要じゃない情報！でもそれがいいんです！ノスタルジーに浸るもよし、当時の文化を調べるもよし。enocoニュースレターも30年後にはいろんな感動があるんだろうな～。

ON THE BOOKS
営業時間：11:00～20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中 www.on-the-books.info

米田 雅明
オン・ザ・ブックス店長



「ARTやFesが果たす社会的役割。真剣に議論すべき時ですね。」

今年のゴールデンウィークは、韓国で10日間過ごした。前半5日はソウルでチルドレンシアター開設1周年記念のパレード作品を日韓共同で制作し、公演。結果は大好評であった。後半は安山市へ。国際シンポジウムに



ゲストスピーカーとして参加するためである。人口は静岡市とほぼ同じ約70万人。韓国の計画都市であり、そのせいか、道路計画や文化芸術施設のゾーニングなど、実に機能的に都市デザインが成されている。多くの安山市の高校生が命を落とした2014年のフェリー転覆事故は記憶にまだ新しい。あの事故を境に「Ansan Street Arts Festival」は、その内容を変えていく。特に目立つのは、フェスティバルに地元のアーティストや市民を多く参加させていることである。ただトップレベルのパフォー

マンスを見せるだけでなく、一体となって創っていく。Artは都市の魅力を高め、日々の暮らしに欠かせないものである。その意図がはっきりと伝わってくる。今回のシンポジウムも、Street Artsの役割を広く問いかけるモノであり、そのImpact(社会成果)を共有化するものであった。私は芸術文化創造都市に必要な要素とフェスティバルの役割について語った。多くの質問が寄せられたが、彼らの一番の関心事は「どうしたら静岡の大道芸は26年も続けられるのか？」私はこう答えた。「Street Artsとフェスティバル開催の意義と成果目標を明確にし、伝えていくこと。目標達成に向かって中長期プランを構築し、毎年見直しを図ること。」それにしても、ここまで大きなシンポジウムがソウルではなく安山市で開催されることに驚いた。

enoco 館長 甲賀雅章の
アートの航海
Voyage d'Art

Vol. 9



enoco ホームページ 広告バナー 随時募集中！

地域情報
ページ

area info

このページは、enocoのまわりで活動するみなさんに1ページ提供し、活動を紹介してもらうページです。今回は木津川に新しくできた遊歩空間の活用を考える「トコトコダンダン」さんに活動を紹介してもらいました。

今号の担当者:「トコトコダンダンの会」さん



トコトコダンダンの会



トコトコダンダン グラウンドオープン

西区立売堀く新町、大涉橋と松島橋の間の木津川護岸が「市民の方に愛される場所に」をテーマに新しく整備されました。2016年、遊歩道部分が一足先に開放され、この4月に晴れてグラウンドオープンを迎えました。市内では数少ない水面に近づけるこの場所では、散歩や読書を楽しんだり、お休みの日にはお弁当を持ってご家族連れが集まったりと、みんな思い思いに過ごされています。

わたし達は、この場所をきれいに、そして楽しく活用していきたいと考えています。日々の水やりや季節ごとの花の植替えはもちろん、昨年の初夏には川沿いの気持ちの良い風の中「あおぞらヨガ」を開催。近隣の主婦の方を中心に、たくさんの方が集まってくれました。



これからの季節、雑草が元気良く生えてきて手入れが追いつかなかつたり、夏には花火などのゴミが増えたりしないかなあと少し心配ではありますが、そんなこともすべて、みんなで楽しみながら対処していきたいと思っています。今後は、小さなお子さんや家族みんなが楽しめるイベントを開催して、この場所がより多くの方に愛され、永く活用されていくことがわたし達の夢です。



トコトコダンダンの会 メンバー募集中

トコトコダンダンの会では、一緒に活動してくれるメンバーを随時募集しています。楽しいこと・おもしろいこと、一緒に考えてつくっていきませんか？

facebook をご活用ください。
f <https://www.facebook.com/tocodan/>



【お問合せ】
トコトコダンダンの会 事務局
(NPO法人トイボックス)
06-6543-4770



トコトコダンダンの会

トコトコダンダンの会は、日常の維持管理やイベントなどを通して、この場所をきれいに、そして楽しく活用していきたいという思いを持った市民の有志によってつくられた会です。メンバーは随時募集中。みんなで一緒にゆったり楽しく活動していきましょう！



enocoのある大阪市西区江之子島では、アートやデザインのちからで、くらしをより楽しむための文化活動「DECOBOCO(デコボコ)」が行われています。

www.enokojima.info

オペラアリアのタペ ソプラノvsトランペット



トランペット奏者の竹森健二氏率いる「Die Musikalische Boschaftes Kollegen」(ムジカリッシュ ポッシュアフェス コレーゲン/音楽家の悪戯仲間)によるクラシック音楽のコンサートを開催します。

日時:6月17日(土)15:00開演
会場:フラッグスタジオ
料金:前売2,500円|当日3,000円
(未就学児入場不可)
出演:竹森 健二(トランペット)、中原 加奈(ソプラノ)、大山 宮和瑚(ピアノ)、二口 晴一(ファゴット)
プログラム:トスカ『歌に生き愛に生き』、ボエーム『私の名前はミミ』、蝶々夫人『ある晴れた日に』、魔笛より『夜の女王』、『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』他

夏目知幸ソロ・ライブと The Blendトーク2017



この春、大阪市此花区にオープンしたホテル「The Blend Inn」のモデルを務めるシャムキャッツのボーカル&ギター夏目知幸によるソロ・ライブと、The Blend Innと夏目知幸を引き合わせたThe 光のTOKO、建築家の島田陽、The Blend Innのディレクションを担当する詩人の辺口芳典によるトーク・セッションを開催します。

日時:6月24日(土)19:00開演
会場:フラッグスタジオ
料金:1,500円
ソロライブ:夏目知幸(シャムキャッツ)
トーク:TOKO、島田陽、辺口芳典
DJ:buffalomckee
【関連写真展】『Only Harfway』
日時:6月18日(日)ー25日(日)
会場:The Blend Inn

夏休み親子特別企画 楽しく学ぼう狂言!!



和泉流狂言師の小笠原匡さんによる、夏休み親子特別企画「楽しく学ぼう狂言!!」をフラッグスタジオにて開催します。レクチャー&デモンストレーション、体験コーナーに公演と、狂言鑑賞が初めての方でも楽しんでいただける内容となっています。600年の伝統を持つ「日本最初の喜劇」である伝統芸能「狂言」。ぜひこの機会に体験してみてください。

日時:8月2日(水)
第1回13:30開演|第2回15:30開演
※1日2回公演
会場:フラッグスタジオ
料金:一般1,000円|小学生以下500円
(未就学児入場可)
演目:盆山(ぼんさん)

えのこじまだけで聴ける!
凸凹ラジオ(FM89.2)も放送中!

www.enokojima.info/radio



その他、卓球教室やヨガ教室など定期講座も開催中。くわしくはFacebookページ、ならびに、えのこじまの情報サイトwww.enokojima.infoをご確認ください。

